

科目名	ボランティア論						
英語科目	ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照					
開講期	春/秋	開講学部等	共通教育科目	配当年次	1年次	単位数	2単位
教員名	相川 康子						

授業概要／Course outline

市民のボランティア（自発的）な諸活動について、歴史や社会事象、関連政策などに関連づけて理解するとともに、非営利組織のマネジメントについても学ぶことができます。「ボランティア」について「高齢者のお世話や地域の清掃活動といった無償の奉仕活動」という限定的なイメージで捉えている人が少なくないと思いますが、本講義ではNPO/NGOやコミュニティビジネス（CB）、ソーシャルビジネス（SB）等も含め地域課題の解決や社会の変革を目指す市民活動全般を、歴史的な文脈の中で概観するので、幅広い知見が得られます。また、ボランティアな行為のプラス面・マイナス面の両方を考察したり、ボランティアをする側・される側双方の立場を慮ったりすることで深い思考力が養われます。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

講義1回分（90分）を3回（各回約30分間）に分け、解説動画を見ながらワークシートを記入することで、途中段階のまとめを行います。

- ・実務経験のある教員による授業

講師は「ボランティア元年」と呼ばれた1995年の阪神・淡路大震災を地元新聞社の記者として経験し、社会人大学院で市民による救援・復興活動やコミュニティビジネスを研究しました。退社後はシンクタンク系NPO法人の役員として、複数の地方自治体の地域活動・市民活動を推進する委員会や、市民活動に対する助成金の選定委員を務めた経験があります。

授業内容・授業計画／Course description・plan

- （1）ガイダンスと導入
全体の狙いやスケジュール、注意点、評価方法等を説明し、自らの「ボランティア」に対するイメージを確認する。
- （2）基礎編①ボランティアのイメージを広げる
ボランティアの語源や理念、主な活動分野や活動形態の解説を聞いて、ボランティアな活動の大枠を理解する。
- （3）基礎編②アプローチの手法
「人はなぜ利他的な行動をするのか」についてどのような解釈があるのか、宗教や倫理、心理学、政策論など多様なアプローチ手法の一端を学ぶ。
- （4）～（8）歴史編：5回シリーズで市民活動の歴史と変遷を学ぶ
 - 近隣同士の互助から、博愛を旨とする近代ボランティアへ
 - 戦中・戦後の市民活動の変遷、戦後憲法の「公私社会福祉分離の原則」の意味
 - 在宅福祉路線と「有償ボランティア」をめぐる論争
 - 活動分野の広がり（環境、まちづくり、国際協力etc.）と組織化
 - 阪神・淡路大震災のインパクト～特定非営利活動促進法の制定へ
 - 公益法人改革と新しい公共の模索

年表や統計資料、行政や研究機関の報告書などを読み解きながら、近代ボランティアが発生した背景や活動内容、担い手の変化、政策とのかかわりに関する概要をつかむ。※途中、中間レポートを提出する。
- （9）対象にどう向き合うか①：支援と受援の関係を考える
ボランティアをする側とされる側の両方の気持ちを考えることで、上下ではなく対等な関係を結ぶ方策を考える。
- （10）対象にどう向き合うか②：ボランティア拒否宣言を読み解く
障がい者が記した「ボランティア拒否宣言」という詩を読み解き、障がい者問題とアドボカシーの歴史、最近の事件や政策動向について考察する。
- （11）関心を広げる：足元から世界へ
身近な事例から発想を広げ、課題解決に資する新たなサービス（ボランティアもあればコミュニティビジネス（CB）やソーシャルビジネス（SB）の形態を採ることもある）や企業の社会貢献について学ぶ。
- （12）マネジメント編① 営利と非営利の違い+ボランティアマネジメント

非営利団体の定義、種別、営利企業との違いを学び、重要なマンパワーであるボランティアの人たちに、どうすれば気持ちよく協力してもらえるかを考える。

(13) マネジメント編② 資金調達と広報・広聴

非営利組織の活動に必要な資金をどう調達するか、どのように広報すれば協力者が増えるかなどを考えてみる。

(14) 講義のまとめ

講義全体を振り返り、ボランティアな活動を支える仕組みについて考察する。

※対面講義としては上記の14コマを実施し、残り1コマ分は30分ずつのまとめをオンデマンド方式で行う。

事前・事後学修/Preparation and assignments

全体で2700分（45時間）の事前・事後学習が必要です。以下に大まかな内容と時間の目安を記します。

(1) ガイダンスと導入

[事前学習]シラバスをよく読み、不明な点を質問できるようにまとめておく（所要時間の目安20分）

[事後学習]「ボランティア」という言葉を図書館で調べたり、ネットで検索したりして、どんな活動があるのかイメージを広げる（同60分）

(2) 基礎編① ボランティアのイメージを広げる

[事前学習]ボランティアをしている人にとって大切な要素はなにか、自分なりに考えてみる（所要時間の目安30分）

[事後学習]ボランティアに関するサイトや雑誌などから実践者のインタビュー記事を探して読んでみる（同80分）

(3) 基礎編② アプローチの手法

[事前学習]特定非営利活動促進法の20分野についてどんな団体があるのか事例を調べる（所要時間の目安40分）

[事後学習]ボランティアな活動の実践者に始めた動機ややりがいをインタビューする→ミニレポート作成：調査とインタビュー、執筆等で所要時間は6時間（360分）を見込む

(4) から (8) までの「歴史編」（5回シリーズ）では、中学・高校で学んだ近現代の日本史の知識がベースになるので、高校の教科書や参考書を見て主要な出来事や政治の変遷、産業発展の歩み、戦争前後の世相といった一般教養的なことは予習しておくこと。

所用時間の目安について、5回とも年表やデータ集を使った予習と復習とで小計90分程度は必要。また宿題のワークシートがある回は追加で50分ずつ×2回の記入時間を見込む。歴史編の中で中間レポートを課すので、参考文献の読み込みや論考、執筆に9時間（540分）程度は必要。

(9) 対象に向き合う編① 支援と受援の関係を考える

[事前学習]自分がボランティアを受ける側になったらどんな気持ちになるかを考え、欲しい支援やされると不愉快な態度を書き出してみる（所要時間の目安45分）

[事後学習]ボランティアが陥りやすい思考法について再考し、どうすればトラブルを防ぐことができるか対策を考えてみる（同45分）

(10) 対象に向き合う編② 拒否宣言を読み解く

[事前学習]年表から障がい者に関する事項を抜き書きしておく（所要時間の目安30分）

[事後学習]津久井やまゆり園事件について調べ、再発防止に何が必要かを考える（同180分）

(11) 関心を広げる：足元から世界へ

[事前学習]統計資料などから現在や近未来の課題を考えてみる（所要時間の目安30分）

[事後学習]事前に考えた課題を解決又は緩和させる事業や活動について、どんな主体が、どんなことができるかを書き出してみる（同120分）

(12) マネジメント編① 営利と非営利の違いを考える

[事前学習]営利企業と非営利組織の違いについて考え、書き出してみる（所要時間の目安40分）

[事後学習]複数動機論をもとに、ボランティアのモチベーションを保つ方法をタイプ別に書き出してみる（同80分）

(13) マネジメント編② 資金調達と広報・広聴

[事前学習]非営利組織の資金源にはどんなものがあるか考えてみる（所要時間の目安30分）

[事後学習]社会貢献活動のクラウドファンディングの事例にはどんなものがあるか調べ、支援を集めている団体（プロジェクト）の広報手法の特徴を考えてみる（同120分）

(14) まとめ：支える仕組み

[事前学習]これまでのレジュメを復習して、分からない点は質問できるようにしておく（所要時間の目安70分）

)

[事後学習]ボランティアセンターやNPOセンターなど中間支援団体の活動について調べてみる (同80分)

※90分を3回に分けて、まとめの動画視聴をオンデマンドで行います。各回とも事前に該当分の資料を復習 (各回20分) し、事後学習としてワークシートを記入すること (各回30分)

授業の到達目標/Expected outcome

- ボランティアやNPO/NGOの必要性や多様性、さらに現代社会でどのような役割を果たしているのかを理解し、身近な活動として捉えられるようになる。
- ボランティアや市民活動の歴史を、経済・政治・社会状況の中で捉え直し、人々の意識や暮らしの変化、さらに政策動向も踏まえた上で、今後求められる活動を思い描けるようになる。
- 非営利組織のマネジメントを学び、将来、自分で活動を始めたり、支援したりする際の基礎知識を身につける。
- ボランティアをめぐるいくつかの論点について、賛否両論を見比べた上で自分の考えをまとめることで、幅広い視野と論理的な思考、さらに自分の考えを伝える素養を習得する。
- ボランティアや市民活動に関する情報がどこにあるか知り、適宜アクセスできるようになる。

身につく資質・能力/Competencies to be attained

- ・思考力
- ・幅広い教養

履修上の注意/Special notes, cautions

- 自発的な (ボランタリーな) 姿勢で臨んでください。
- 講義中の私語や立ち歩き、講義とは関係のないスマートフォンやタブレット端末の利用、イヤフォン装着による動画や音楽の視聴などは禁止します。
- レポートやワークシートはその都度、書式を指示します。書式を守れていないものや安易なコピー、自ら思考していないものは評価の対象とはしません。

評価方法/Evaluation

中間レポート15%、インビューレポートを含む提出用ワークシートの作成 (5~6回) やフォーラムへの意見書き込み (随時) の内容が45%、期末テスト40% を目処に総合的に評価します。

教材/Text and materials

テキストは特に指定せず、その都度、参考となる文献やWEBサイトを紹介します。

参考図書として

- 岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子編『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会 (2006年)
- 雨森孝悦著『テキストブックNPO 非営利活動の制度、活動、マネジメント 第3版』東洋経済新報社 (2020年)
- 大阪ボランティア協会ボランティアリズム研究所監修『日本ボランティア・NPO/市民活動年表 増補改訂版』明石書店 (2022年)
- P. H. ドラッカー著 (上田惇生・田代正美訳) 『非営利組織の経営』ダイヤモンド社 (1991年)
- 大橋正明、利根川佳子著『NPO・NGOの世界』放送大学教育出版界5786 (2021年)
- 金子郁容 著『ボランティア~もうひとつの情報社会』岩波新書235 (1992年)
- 村井雅清 著『災害ボランティアの心構え』ソフトバンク新書 (2011年)
- 宮垣元 著『NPOとは何か 災害ボランティア、地域の居場所から気候変動対策まで』中公新書2809 (2024年)

質問や相談の方法/Instructor contact

非常勤講師なのでオフィスアワーはありませんが、講義終了後しばらくは教室または非常勤講師控え室に滞在して、質問に応えるようにします。連絡は大学支給のメールアドレス (初回のガイダンスで伝えます) あてにメールをください。通信トラブルを防ぐため、送る側も大学支給のメルアドから送るのが望ましいです。必ず件名を記し、本文に入る前に学生番号と氏名を明記すること。

その他/Others

- 同じく共通教育科目の「はじめてのボランティア」「実践ボランティア (サービスマニエール)」を並行して受講することで、理解が深まります。
- 学内のボランティアセンター (13号館地下1階) を活用してボランティアの情報を得てください。